

目 次

1. 第4回仙台塩釜港港湾脱炭素化推進協議会の振り返り	1
2. 本日の議事内容について	4

1. 第4回仙台塩釜港港湾脱炭素化推進協議会の振り返り

令和5年8月31日に開催した第4回協議会での内容は以下のとおり。

国土交通省東北地方整備局からの発言

発言内容	事務局の対応方針
・現在の温室効果ガス排出量は、火力発電所で使用する燃料に一定の係数を乗じた推計値となっている。この推計値について、電力を使用する側の電力量に一定の係数を乗じた推計値に見直しを行ってほしい。	「3.議事」で説明

議事内容

- (1) 「温室効果ガス吸収量」を基準年（2013年）327.8トン、現状（2019年）1,228.7トンにすることについて**承認**を得ました。
- (2) 「温室効果ガス削減・吸収に関する事業」の記載内容について**承認**を得ました。
- (3) 「港湾・臨海部の脱炭素化に貢献する事業」の記載内容について**承認**を得ました。
- (4) 「脱炭素化推進計画の目標達成指標（KPI）」を以下のとおり設定することについて**承認**を得ました。

【KPI 1（CO2排出量）】

短期：248.8万トン／年（2013年比50%減）

中期：142.4万トン／年（2013年比75%減）

長期：実質0トン／年（2013年比100%減）

【KPI 2（低・脱炭素化型荷役機械導入率）】

短期：50%、中期：75%、長期：100%

【KPI 3（ブルーインフラの保全・再生・創出）】

中期：吸収量123トン増（2019年比10%増）（藻場換算約25ha）

長期：吸収量246トン増（2019年比20%増）（藻場換算約50ha）

開催状況写真



1. 第4回仙台塩釜港港湾脱炭素化推進協議会の振り返り

委員からの意見

意見内容	事務局の対応方針
<ul style="list-style-type: none">脱炭素化推進計画のようなバックカスティング（未来のあるべき姿から、現在にさかのぼって課題解決を考える手法）においては、お互いの情報を共有することが重要である。	今後の協議会開催について計画に反映。
<ul style="list-style-type: none">「物流の2024年問題（自動車運転の業務に対し、年間の時間外労働時間の上限が960時間に制限されること）」等の社会情勢の変化を活用して、削減を進める方策も考えられるのではないか。	モーダルシフト等の状況を注視し、協議会にて検討。
<ul style="list-style-type: none">藻場の創出などの自然環境の保全は重要である。今後の海水温上昇により藻場の生育に大きな影響が生じる場合があるため、モニタリングを適切に実施していく必要がある。	KPI3の推進にあたり状況を注視。
<ul style="list-style-type: none">KPI 1 のCO2排出量は、プロジェクトの基本目標であり、この基本目標を実現するための個別施策として、KPI 2 とKPI 3 が位置づけされるべきである。	計画に反映。
<ul style="list-style-type: none">次回の協議会で提示予定となっている脱炭素化推進計画（素案）については、事前に構成員への意見照会を実施してもらいたい。	事前に内容照会を実施。

1. 第4回港湾脱炭素化推進協議会の振り返り

1. 温室効果ガス吸収量の推計

◆ブルーカーボン・緑地の吸収量推計値について審議

- ・ 仙台塩釜港における温室効果ガス吸収量は、「藻場」「養殖海藻」「干潟」「港湾緑地」の合計
 - ⇒ 基準年（2013年）： 327.8トン
 - ⇒ 現 状（2019年）：1,228.7トン

2. 温室効果ガス削減・吸収に関する事業

◆温室効果ガス排出量の削減に関する事業等について計画への記載事項を審議

- ・ 港湾脱炭素化推進計画の目標（温室効果ガス2030年50%削減、2050年カーボンニュートラル）を達成するために現在実施している、又は実施を予定している事業を記載。

今回協議会において修正

3. 港湾・臨海部の脱炭素化に貢献する事業

◆港湾・臨海部の脱炭素化に貢献する事業について計画への記載事項を審議

- ・ 「2.温室効果ガス削減に関する事業」を実施するために必要となる、低炭素燃料や次世代エネルギーの受入・供給・貯蔵に係る事業及び施設整備等を記載。

4. 脱炭素化推進計画の目標達成指標（KPI）

◆仙台塩釜港港湾脱炭素化推進計画における目標達成指標（KPI）の項目・数値の設定について審議

KPI (目標達成指標)	具体的な数値目標		
	短期:2030年まで	中期:2040年まで	長期:2050年まで
【KPI1】 CO2排出量	284.8トン／年 (2013年比50%減)	142.4万トン／年 (2013年比75%減)	実質0トン／年 (2013年比100%減)
【KPI2】 低・脱炭素化型荷役機械導入率	50%	75%	100%
【KPI3】 ブルーインフラの保全・再生・創出	—	吸収量:123トン 増 (2019年比10%増) (藻場換算:約25ha)	吸収量:246トン 増 (2019年比20%増) (藻場換算:約50ha)

今回協議会
において修正

2. 本日の議事内容について

第1・2回 CNP協議会

- 第1回協議会
(R4.6.8)
- ・趣旨
 - ・公募及びWGの説明
 - ・企業講演
- 第2回協議会
(R4.9.9)
- ・先進企業の紹介
 - ・【2-2】
温室効果ガス
排出量の試算方法
 - ・【2-5】
次世代エネルギー
需要量の推計方法

第3回 CNP協議会 (R5.5.31)

- ◇審議事項
- ・【2-2】
温室効果ガスの
排出量の推計
 - ・【2-4】
温室効果ガスの
排出量の削減目標
 - ・【2-5】
水素・燃料アンモニア等の
需要推計
 - ・【5-1】
港湾脱炭素化推進
計画の計画期間

第4回 脱炭素化推進協議会 (R5.8.31)

- ◇審議事項
- ・【2-1】
港湾脱炭素化推進
計画の目標
 - ・【2-3】
温室効果ガスの
吸収量の推計
 - ・【3-1】
温室効果ガス
削減・吸収に
関する事業
 - ・【3-2】
港湾・臨海部の
脱炭素化に
貢献する事業

第5回 脱炭素化推進協議会 (R5.11.27)

- ◇審議事項
- ・国土交通省東北地方
整備局発言に関する
修正事項
(第4回までの内容)
 - ・【4-1、4-2】
計画の達成状況の
評価の実施体制・
手法
 - ・【6】
港湾脱炭素化推進
計画の実施に関し
港湾管理者が必要
と認める事項
 - ・港湾脱炭素化推進
計画（素案）

パブリックコメントの実施

第6回 脱炭素化推進協議会 (予定)

- ◇審議事項
- ・港湾脱炭素化推進
計画（最終案）

※第6回脱炭素化推進協議会はパブリックコメントの状況等により変更の可能性がある。